

草地等の生産性向上について

- 近年、規模拡大等により草地管理にかかる時間が減少し、草地改良率の低下や難防除雑草の繁茂が課題。
- また、台風や豪雨の増加、干ばつなどの気象の不安定化により、草地改良、飼料生産に悪影響が発生。
- このため、草地難防除雑草駆除技術実証事業と草地生産性向上対策において、生産性の高い草地等への転換やリスク分散の取組を支援。
- 改良後の草地については、適正な管理により生産性の維持・向上を図ることが重要。

【R3年度補正】 草地難防除雑草駆除技術等実証事業のうち 草地難防除雑草駆除技術実証事業

特に防除の難しい難防除雑草の駆除技術の実証等の取組を支援。
(補助率: 定額、1/2以内)

【R4年度】 畜産生産力・生産体制強化対策事業 (草地生産性向上対策のうちリスク分散型草地改良推進)

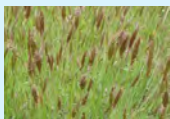
不安定な気象に対応したリスク分散等により、安定的な収量を確保するための草地改良を行う取組を支援。
(補助率: 1/2以内)

難防除雑草※の駆除

○ 難防除雑草は繁殖力が旺盛であり、牧草の収量や品質の低下を招くため、地域一体となった計画的な駆除対策が必要。

※ 難防除雑草とは、根茎等での繁殖が旺盛で、除草剤がききにくく、単一の手法での防除が困難な雑草。

<特に防除の難しい難防除雑草>



メドウフォックス
テイル ハルガヤ

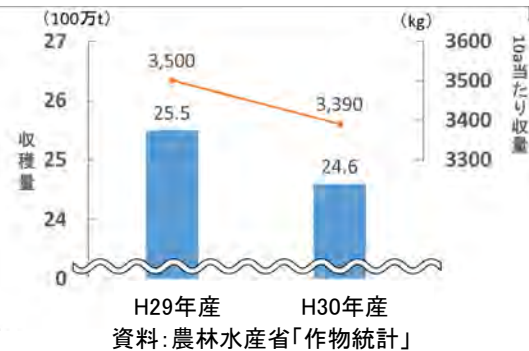


計画に基づき
除草剤の散布
等を実施



難防除雑草の
繁茂しない
生産性の高い草地

○ 気象の不安定化による牧草の収穫量と単収の変化



平成30年産は
・ 生育期の天候不順
・ 収穫期の台風襲来
及び長雨
の影響により収穫量が
減少。

リスク分散のための取組例(収穫適期の拡大)

○ 圃場の一部を異なる草種に転換することにより、収穫適期が拡大され、天候不順による収量減少の影響を緩和。

(例: チモシー主体圃場60haのうち、30haをオーチャードグラス主体圃場に転換)

転換後の収穫期(イメージ)



← TY: チモシー



OG: オーチャードグラス

○ 草地改良の実施状況

区分	H2年	12年	22年	27年	28年	29年	30年
牧草作付面積(万ha)	A	56.9	57.6	55.4	54.1	53.9	53.5
草地改良・整備面積(万ha)	B	3.4	2.6	1.6	1.9	1.7	2.0
草地改良率(%)	B/A	5.9	4.6	2.8	3.5	3.1	3.7

(北海道農政部調べ)